

当館の根付文化振興が認められ、『文化庁長官特別表彰』を受賞しました。

この度、京都 清宗根付館 館長 木下宗昭が令和7年度文化庁長官特別表彰を受賞いたしました。「永年にわたり、根付を蒐集し、根付専門美術館である京都 清宗根付館を設立して、根付師の育成と支援に努めるとともに、文化財建造物を保存・活用した展示・保存・教育活動の推進及び海外発信を通じて、我が国の文化の普及に多大な貢献をしている」との功績が認められ表彰されました。2026年 1月15日に式典が開催され、ロックバンド「THE ALFEE」の方々をはじめとする各界の功労者が招かれました。当館ではこれからも伝統的な装飾品から芸術品へと進化した根付文化の魅力を国内外の多くの皆様に伝えられるよう努めて参ります。



文化活動に優れた成果を示し、特に発信力の高い方々に対し、文化庁長官 都倉 俊一様より「文化庁長官特別表彰」が授与されました。

数奇な運命に彩られた **現代根付の歩み**

第四話

現代根付の拡大期 ワシントン条約と作家の目覚め

前回は1970年代の作家たちが現代の感覚を活かすとともに、根付本来の形態の復権を目指すなかで独自の作風を築いたことを述べましたが、今回は80年代から90年代にかけての根付の拡大期を見ていきます。1980年はワシントン条約が批准されたところから幕を開けました。象牙の取引は当面続けることができたため、国内ではデパートでの販売会、また海外コレクターなどへの販路が拡大しました。80年代はそれまでの置物のような立ち姿や着物などの細部の線刻から離れて、豊かな量感と動勢を活かす造形力が高まりました。またメディアでも紹介されて国内外で美術品のとして評価が進み、国内外において徐々に周知を得るようになりました。さらに大きな追い風となったのは高円宮憲仁親王殿下と久子殿下のご結婚のきっかけが根付であったことも話題になりました。その後も高円宮殿下が根付作家たちを

牽引（けんいん）なされ、作品の本質は「ひねり」にあるとして、造形にも主題にもひとひねりを加えることを提唱されました。これは現代根付の核になる美意識として今でも引き継がれています。一方で85年には円高の急進、また89年象牙製品の国際取引がすべて禁止となり象牙を取り巻く環境に混乱を与えました。91年にはバブル崩壊によるあおりを受けることになりました。そうした状況のなか90年代には象牙彫刻以外のジャンルから、宝飾や漆芸、ガラス工芸、外国からの作家らが根付の創作に加わることによって新風が吹き込まれることになりました。



平賀 胤壽「抱籠」象牙・黒檀

2026年 10月～12月の特別企画展のご案内

根付作家が夢見た至高の根付たち

『百花繚乱! 根付の世界』展

10月「躍動する根付」展 ■10月1日(木)～31日(土)

11月「秋の名品」展 ■11月1日(日)～29日(日)

12月「想像ふくらむ根付」展 ■12月1日(火)～27日(日)

京都 清宗根付館 公式YouTube チャンネルを開設しました。今までの公式Twitter、Instagramでも、最新情報や作品画像を発信していますので、皆様のフォローをお待ちしています。



公式サイト

佐川印刷株式会社は印刷及び情報加工の分野でのリーディングカンパニーとして、日本文化の継承と美術の発展を目指し、京都 清宗根付館および清宗記念館を支援しています。



公益財団法人

京都 清宗根付館 とは

当館は、佐川印刷株式会社 取締役名譽会長 木下宗昭による「日本のよき伝統を、日本人の手によって、日本に保管したい」という発意によって、ここ文化首都・京都に設立された、日本で唯一の根付を専門とする美術館です。当館では、「新たな挑戦」と「絆」をむね(宗)とし、根付と根付をめぐる文化の継承・創造・発展を目指し、＜魅せる＞＜育む＞＜繋がる＞を使命に、地域と皆さまに開かれた美術館として活動しています。



SUMMER ~ AUTUMN Issue. 25

〔目次〕

- 企画展の見所
- 現代根付の歩み
- 作家の視点

〔発行元〕

公益財団法人 京都 清宗根付館
〒604-8811 京都市中京区壬生 賀陽御所町46番地(壬生寺東側)
電話 075(802)7000
www.netsukekan.jp/



日本で唯一の現代根付専門美術館 京都 清宗根付館『企画展』のご案内

時をかける、摩訶不思議な根付の世界。

『根付はタイムトラベラー』展

現代根付は空想の世界や物語を自在に表現することができて、時間も場所も自由に行き来できるタイムトラベラーといえます。タイムトラベルを扱ったSF作品の嚆矢とされるのは1887年エンリケ・ガスパール・イ・リンバウ著『時間遡行者』でタイムマシンが初めて登場し、その後1895年にハーバート・ジョージ・ウェルズ著『タイムマシン』で広まりました。19世紀の産業革命や科学技術の発達により、時間の正体を突き止めようとされたことが背景として挙げられます。以来時間遡行に関する科学的な証明は物理学者の間

で熱い議論が交わされ、現在まで科学的な見地を踏まえて様々なSF作品が見られます。時間を行き来するという概念は日本では古くからあり、日本最古の物語『竹取物語』や『浦島太郎』などもタイムトラベルがテーマといえます。現在のアニメやマンガなどでは異世界転生として全く別の人格として生まれ変わったり、時には人間でない別の存在となったりする場合もあり、パラレルワールドやタイムリープなどタイムトラベルの概念は広がっています。さあ、一緒に根付をめぐる時間旅行に出かけましょう。

The Enchanting World of Netsuke: A Timeless Tradition "Netsuke as Time Traveler"

根付はタイムトラベラー展

2026年 7月1日(水)～9月30日(水)

平賀 胤壽「抱籠」象牙・黒檀

公益財団法人 京都 清宗根付館
Public Interest Incorporated Foundation
KYOTO SEISHU NETSUKU ART MUSEUM

〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町46番地1 (壬生寺東側) TEL / 075(802)7000

SAGAWA PRINTING

佐川印刷株式会社は印刷及び情報加工の分野でのリーディングカンパニーとして、日本文化の継承と美術の発展を目指し、京都 清宗根付館と清宗記念館を支援しています。

告知ポスター

7月 ■7月1日(水)～31日(金)

「時間を旅する根付」展

現在過去未来の時間軸を自由に行き来するタイムマシンの扉を開けると、そこには太古の恐竜が眠りから覚めたり、平安時代の華麗な貴族たちの恋物語が繰り広げられたり、戦国時代の武将たちがひしめき合ったり、江戸時代の熱狂に心動かし、未来の進化に驚いたり、現実とは異なる世界へ足を踏み入れ、時代の真実が臨場感を持って迫ってくることでしょう。今月は根付で表現された、さまざまな時代を彩った魅惑的な立役者たちを取り上げます。時間を旅しながら悠久の浪漫に想いを馳せ、栄枯盛衰の歴史を感じることができ、日常から解き放たれた私たちは時代の目撃者となることでしょう。

8月 ■8月1日(土)～30日(日)

「異空間への憧れ」展

タイムトラベルは時間を移動するだけでなく、異空間や異次元の世界を旅することでもあります。過去の分岐点から現実世界と異なる歩みをした並行世界、すなわちパラレルワールドは私たちが認識している現実世界と表と裏の関係として接しているとされます。タイムトラベルでもし異世界をのぞいてみることでしたらどんな迷宮が待ち受けていることでしょう。そこでは太陽が西から登り東に沈み、昼間は月が出ているかもしれません。今月はそんな迷宮の境界に棲む住人たちを特集します。私たちの想像を超えた生物たちや闇に潜む鬼や妖怪たち、伝説に登場する怪物たちの根付が登場します。

9月 ■9月1日(火)～30日(水)

「極上の非日常」展

旅は見たことない風景に触れ、美味しい食事や新しい出会いをすることで日常から離れた特別な体験を味わうことといえます。時間旅行も時空を超えた極上の非日常に身を委ねることによって、今までとは違う視点で現実を見つめるきっかけを与えます。長い旅から帰ったとき現実の世界の不条理や欺瞞に引き戻されたとしても、日常に潜む「普通の生活」をかけがえのない幸せだと改めて感じる方も多いことでしょう。そこには先人たちが築いてきた文化の積み重ねが感じられるはず。今月は旅の風物を特集し、極上の非日常と平穏な日常を通して人間の営みがもたらす幸福感にひたる根付を紹介します。



和地 一風 (1970～)
「時の欠片(かけら)」 高4.4cm
象牙

春夏秋冬の経過をひとりの女性の一生になぞらえた連作から夏の少女時代。夏は情熱的で開放的な魅力に満ちた季節。少女の初々しさをタイムカプセルに。



高山 明恵 (1932～)
「おひるね」 高2.0cm
象牙

邯鄲(かんたん)の夢とは、若者が仙人から借りた枕で50年の栄華を夢でみたという故事。そこから翻案した作品で婦人も猫も夢でタイムトラベルしている。



向田 陽佳 (1968～)
「蘇る化石」 高3.7cm
黒柿・水牛角

黒柿は樹齢数百年の柿の木で黒色が出たものを指し、1万本に1本の銘木とされる。色合いを活かし太古の地層の化石と目覚めた恐竜を対比している。



森 哲郎 (1960～)
「メドゥーサvs.ペルセウス」 高3.7cm 象牙

もしあなたが神話の時代に行けたら、この有名な戦いの目撃者になるかもしれない。ただしメドゥーサと目を合わせれば、石にされて現在に戻れなくなる。



及川 空観 (1968～)
「三賢者」 高4.4cm
象牙・べっ甲

猿の司祭に、猿の音楽家、猿の冒険者がそれぞれにちょっかいを出して「見させざる、聞かせざる、言わせざる」と皮肉を込めている。人類の未来を予見？



池田 朝重 (1972～)
「祝い河童」 高5.0cm
鹿角

馬に悪化した河童を懲らしめようとした馬方が、泣いて謝る河童を許した。その晩に河童がいくら飲んでも酒が湧き上がる河童徳利を授けたという民話から。



平賀 胤壽 (1947～)
「俳加羅」 高6.9cm
黄楊

ハイカラは英語high collarに由来して、明治期に西洋風の生活様式を模した人々を指した。鬼も着飾って西部劇の世界にタイムスリップしている。



佐田 澄 (1944～)
「人魚」 高4.4cm
象牙

海の中を自由に泳ぎまわる人魚は神秘的な魅力で人間を魅了してきた。人魚は陸に暮らす人間に憧れていた。超えることのできないパラレルワールド。



赤木 英文 (1949～)
「白鬼夜行」 高3.5cm
象牙・貝

平安の京では深夜に鬼や妖怪が徘徊したとして恐れられた。闇は異世界のとぼりを開く合図。ふてぶてしい顔の妖怪も大きな眼を見開いて獲物を追う。



若林 寛水 (1955～)
「みつめ」 高4.2cm
マホガニー

額の中央に第三の眼をもつ妖怪であり、正体は古狸とされ、巨大化して人を驚かすという。長いあいだ時空をさまよった狸もタイムトラベラーかもしれない。



黒岩 明 (1949～)
「感動」 高4.5cm
象牙

ふとした瞬間に大きな幸運が訪れることを表現している。擬人化されたスロットマシンの頭にはねじり鉢巻きをして運命の大勝負にでて、見事大当たり！



齋藤 美洲 (1943～)
「飛躍」 高11.0cm
鹿角・べっ甲

馬が前足を高く上げて勢いよく跳ねる姿は、困難を飛び越え、目標を達成する(飛躍・上昇)ことを表す。鉄道ができるまで馬は最速の移動手段であった。



桜井 英之 (1941～)
「鬼も蛇も出た」 高4.4cm
黒檀・象牙・ピンクウッド

いつ怖いものが出るか分からないように未来は予測できないという諺より。作品では両方が出てしまい、鬼は兜をかぶって蛇をよけようと困り顔。



針谷 祐之 (1954～)
「親指姫」 高3.1cm
象牙・漆・黄楊

アンデルセン童話より。親指ほどの大きさの女の子が奇想天外な世界に連れ去られて苦労を重ねた末に、最後には幸せを手にするというお話し。



加賀美 光訓 (1959～)
「通勤地獄 さらば先頭車両と日の丸弁当」 高3.8cm
象牙・黒水牛角・黒檀・べっ甲他

「通勤地獄はマンガだ」(1965)と新聞で揶揄された東京の通勤ラッシュ。昭和の高度成長はそうしたサラリーマンたちによって支えられた。